

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス のこのこ美原		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 5日		～ 2024年 12月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22人	(回答者数) 18人
○従業者評価実施期間	2024年 11月 5日		～ 2024年 12月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用児童が楽しみを持って通所を行う子ができる活動内容を設定している。	・見通しを持って通所できるよう活動プログラムを子どもたちの意見を取り入れ、楽しみを持って通所できる環境を設定している。	・今後も楽しみの中に様々な経験を通して「できた」を積み重ね自信につながる取り組みを行っていききたい。
2	・適切な支援が行えるよう、職員間の情報共有や月1の社内研修を行っている。	・社内研修では各事業所の困り感や活動内容の情報共有・外部研修などを行い一人一人の職員のスキルアップを行っている。	・さらに充実を図るために保護者や関係機関などの意見や参加などを行いながらスキルアップを目指していく。
3	・一人一人の特性に合わせたサポートや家庭や関係機関との連携を図り情報共有を行いながら支援を取り組んでいる。	・イラスト提示や手話など個別に支援が行えるよう職員一人一人が意見を出し合える環境作りを行っている。	・事業所以外での子どもたちの様子を知るために学校や他事業所の見学を行っていききたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数を多めに設定することが難しい。	・短期間で退職されてしまうため職員数が安定していない。	・職員を日によって多く配置したり、人材確保にも力を入れていき職員が働きやすい環境設定を考えていききたい。
2	・バリアフリーや子どもたちのクールダウンできる場所等、特性に合わせた環境設定が難しいときがある。	・建物自体の構造や設備の老朽化などで設置が難しく、危険な箇所もある。	・パーティションで区切り落ち着ける環境を提供したり、老朽化し危険箇所に関しては室内の環境等の改善を行い、職員の立ち位置にも気をつけていききたい。
3	・地域の中で他のこどもと活動する機会がすくない。	・児童館等では他利用者・事業所と活動場所が区切られているため、交流が難しい。	・地域で行われているイベントに参加したりするなど、交流できる場面を増やしていききたい。